

達成度	達成値 ×100 目標値	評価	A ≥ 100	80 > C ≥ 60
			100 > B ≥ 80	60 > D

1 確かな学力

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当
確かな学力	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用、個別学習の取組、各種調査の分析をもとに、単元テスト、公的学力検査における正答率向上を図る。 各学級の学習課題に応じた課題に取り組ませ活用問題の正答率向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト平均値 80%以上達成の児童 80%以上 公的学力検査における活用力全科目全国平均以上 	79.75 68.7	C	教務部
	育成すべき資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間を核として、思考力・表現力の育成に重点を置き、深い学びを引き出す授業づくりに取り組む。 表現力を高めるために、説明する機会を意識した学習を行い、発信力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「資質・能力」児童意識調査、外部アンケートによる肯定的評価 80%以上 学習したことを発表する場を各学年2回以上設定(参観日、発表朝会、ICTの活用等) 	100以上 66	A C	

【評価結果の分析】

(1) 教科等の特質に応じた見方・考え方の習得による学力の向上

【単元末テストの結果】

学年	国語(平均)	算数(平均)
1・2年	71.1	75.3
3・4年	91.1	84.7
5・6年	86	79.5

全校の状況・・・63.8%(達成値)÷80%(目標値)×100=79.75

達成状況 C

【三次市学力到達度検査の結果】(3～6年生)

16項目中11項目が全国平均以上となった。

11÷16×100=68.7%(達成値)

68.7%(達成値)÷100%(目標値)×100=68.7 となり、

達成状況 C

(2) 表現力・思考力の向上

児童アンケート項目【育みたい資質・能力のうちコミュニケーション能力】

①授業中、友達の話をわかろうとして聞いていますか(1～3年生)

友達と話し合う時、自分の考えと比べながら、友達の話を聞いていますか(4～6年生)

肯定的回答・・・16名 88%(達成値)÷80%(目標値)×100=110

②授業中、友達がわかるように話をしようとしていますか(1～3年生)

友達と話し合う時、自分の考えを言葉で伝えることができますか。(4～6年生)

肯定的回答・・・17名 94%(達成値)÷80%(目標値)×100=117.5 達成状況 A

参観日アンケート

①考えや意見を伝える 肯定的評価…100%

$$100\% (\text{達成値}) \div 80\% (\text{目標値}) \times 100 = 125$$

②発表の声 肯定的評価…76.5%

$$76.5\% (\text{達成値}) \div 80\% (\text{目標値}) \times 100 = 95$$

③聞く態度 肯定的評価…100%

$$100\% (\text{達成値}) \div 80\% (\text{目標値}) \times 100 = 125$$

達成状況A

・学習したことを発表する場を各学年2回以上設定(参観日, 発表朝会, ICTの活用等)

低学年…全校朝会(国語学習の発表)

中学年…オープンスクール, 三次小学校での地域学習交流,

高学年…全校朝会(修学旅行・平和学習について),

$$66\% (\text{達成値}) \div 100\% (\text{目標値}) \times 100 = 66$$

達成状況C

【今後の改善方策】

- ・ 基礎的・基本的な学力の定着を図るため, 複数職員でチャレンジタイムや放課後学習等を行い, 個の課題に応じた学習を継続して行っていく。
- ・ 総合的な学習の時間を中心として, 表現力・思考力の向上を目指してきた。他校との交流を行った学年もあり, 他校のよさを知り, これからの発表に生かそうとしている児童の姿が見られた。発表の声は多少課題が見られるものの, 各教科での学びを総合的な学習の時間に生かし, 学習したことをICT等を活用してどのように伝えとよいか(相手意識をもって)など, 児童同士での話し合い(グループトーク, ペアトーク)をしながら, よりよい学び合いになるよう考え学習することができた。今後も表現力の育成を図っていきたい。

2 豊かな心

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当
豊かな心	自己効力感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点をもった取組を通して、人とつながり、社会参画を通して自己肯定感の向上を図る。 ・作品応募、各種大会参加を積極的に行い、挑戦することで自己効力感を身に付ける。 	・児童アンケートの「自己効力感」「自己肯定感」に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合 80%以上	108.75	A	生活保健部
	自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動を活性化し、学校生活における課題発見・解決力を身に付ける。 ・「なりたい自分」を設定することで、目標を意識して生活し、成長を実感できるようにする。 	・児童アンケートの「自己指導能力」に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合 80%以上	111.0	A	

(1) 自己効力感を高める

【評価結果の分析】

○児童アンケート（自己効力感・自己肯定感）

むずかしいことでも、失敗をおそれず、ちょうせんしていますか。

肯定的 17人 / 18人 94.4%

将来の夢や目標を持っていますか。

肯定的 15人 / 18人 83.3%

自分には良いところがあると思いますか。

肯定的 15人 / 18人 83.3%

評価 $47 \text{人 (肯定的合計)} \div 54 \text{人 (18} \times 3) \times 100 = 87.0$

$87.0 \div 80 \times 100 = 108.75$

達成状況 A

【今後の改善方策】

- ・ 1人1人のよさや頑張りについて、各学級で他者評価を行い、肯定的にとらえさせる。
- ・ 児童会活動を積極的に行い、児童が主になって活動をしているという実感を大事にする。
- ・ 各種大会への積極的参加及び応募作品（コンテスト、新聞投稿）を充実させることにより、自己の頑張りを実感させ、自己効力感を育成する。

(2) 自己指導能力の育成

【評価結果の分析】

○児童アンケート（自己指導力）

「みんなで決めた目標を達成するために、自分の役割を果たそうとしていますか。」

肯定的 17人 / 18人 94.4%

「なりたい自分」に向けて、目標を決め、積極的に取り組んでいますか。

肯定的 16人 / 18人 88.8%

自分できめたことは、さいごまであきらめずにがんばることができていますか。

肯定的 15人 / 18人 83.3%

評価 $48 \text{ (肯定的合計)} \div 54 \text{人 (18} \times 3) \times 100 = 88.8$

$88.8 \div 80 \times 100 = 111$

達成状況 A

【今後の改善方策】

- ・ 児童会執行部が提案する「児童会月目標」において、その提案理由を丁寧に説明させたり、各学級の取り組み内容を全校に周知したりして、一人一人の目標達成に対する意識の向上を図る。
- ・ 各学級の終わりの会などでしている「よかったことみつけ」を継続し、児童一人一人のがんばりを評価する。

3 健やかな体

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当
健やかな体	基本的な生活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と連携し、テレビ・ゲーム等の視聴時間減少を目指す。 ・栄養教諭と連携した食育指導を行い食の大切さへの理解を図る。 	・3点固定が定着した児童の割合80%以上	72.0	C	生活保健部
			・メディアコントロール実施による達成率80%以上	67.0	C	
	体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業の工夫と、業間体育の継続により運動能力向上を図る。 ・新体力テストにおいて課題のある2項目をターゲットとした重点的な取組を通して、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力調査において、県平均を上回った児童の割合80%以上 	118.0 111.0	A	

【評価結果の分析】

(1) 生活リズムの確立

3種類のアウトメディアの内、いずれかに3日以上参加した児童の割合は72%

達成状況 C

令和5年度3学期	アウトメディア参加率 (%)			
	低	中	高	全校
1日メディアを見ないコース	14	0	14	9
見るメディアは1種類で、1日2時間以内のコース	85	75	43	68
食事中はメディアを見ないコース	71	50	57	59

近年、メディア視聴に対する、目の影響（疲労・近視）、遅寝、睡眠不足が深刻となっている。本校も、とりわけ、メディア視聴、睡眠時間に課題がみられる。そのため、毎学期に、3点固定定着を図るため、三次中学校の試験期間に合わせて「生活づくり週間」を行っている。3学期は、2月13日から2月19日の期間に行った。

今学期は、メディア視聴2時間以内の児童が67%と、2学期の84%に比べて17%低下した。引き続き、メディア視聴時間については、児童への啓発だけでは終わらず、担任からも懇談会などで、保護者と連携を図り、改善に努めていく必要がある。

3点固定定着状況は、72%であり、80%以上には、達成することはできなかったが、結果がすぐに出ないことでも、継続的に、重要性を伝えていくことに意義があると思う。

【今後の改善方策】

より一層メディア機器の利用時間や利用内容等、自分でコントロールする力が求められるため、継続して健康面、メディアリテラシーの両面から指導が必要である。メディアリテラシーについての保護者啓発は、低学年の入学時から早めに行っていきたい。

また、児童に一人1台端末が与えられ、自宅での利用時間も加わり、メディア機器使用による身体への負担や影響も考えられることから、「睡眠」に着目して、保健指導を実施した。

今後も、睡眠、メディア視聴時間と目の影響についての保健指導を行い、健康に大切なことは継続して伝えていきたい。

(2) 体力向上

2学期に、握力と50m走の2種目に絞って、新体力テストの再測定を実施した。

その結果、本校児童の体力は良好な状態にあるといえる。

○体力測定の項目・・・「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ」(8項目)

測定結果から

(AB-ED)率 → 66.6% (72.2-5.6)

判定	A	B	C	D	E	計
判定ごとの人数	5 (6)	8 (7)	4	0	1	18
	13		4	1		18
	(AB率) 72.2%		(C率) 22.2%	(ED率) 5.6%		100%

(AB-ED)率 体力テストは8種目の合計得点によりA~Eの5段階評価を行います。
(AB-ED)率は成績上位群A, Bから下位群D, Eを引いたものです。

AB率+C率=72.2%+22.2%=94.4%

評価 $17 \div 18 \times 100 = 94.4$
 $94.4 \div 80 \times 100 = 118.0$

達成状況 A

「握力」「50m走」の項目において、前回の測定値よりも維持及び向上した児童を85%以上にする。

「握力」「50m走」の項目において、前回の測定値よりも維持及び向上した児童は、88.8%だった。

評価 $16 \div 18 \times 100 = 88.8$
 $88.8 \div 80 \times 100 = 111$

達成状況 A

【今後の改善方策】

- ・ 業間体育を週に2回(火・木)実施する。外では走る運動を行い、体育館ではなわとびを行い、脚力を高める。体育朝会(月一回)を行い、的を絞った体力強化を行う。
- ・ 体育科の授業においては、準備運動やサーキット等で「握力」を高める運動(登り棒や鉄棒等遊具を使った運動)を継続して行う。
- ・ 8種目の中で本校の課題は長座体前屈なので、取り組んでいく。

4 信頼される学校

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当
信頼される学校	学校の説明責任の遂行と情報の開示	・マスメディアの活用や学校便り・小中一貫だより、コミュニティ・スクール広報誌等の定期発行、アンケートによる学校満足度の向上を図る。	・学校評価アンケートの情報公開における肯定的評価90%以上	111	A	総務部
			・HPや通信等でC、Sに係る取組を毎月発信	220	A	
	地域から学校への満足度・信頼度の向上	・「みよし学園コミュニティ・スクール」を核に、地域とビジョンを共有し「育みたい資質・能力」の育成を図る。	・学校への保護者、地域アンケートの肯定的評価90%以上	107.8	A	
			・保護者、地域関係者の学校支援活動参加数(80名以上)	160	A	

【評価結果の分析】

(1) 学校の説明責任の遂行と情報の開示

保護者・地域アンケートの「学校の情報開示」に係る結果

「学校・先生は便りを通して学校の方針、取組や学級の様子などを積極的に伝えている。」

肯定的評価・・・18/18=100% $100 \div 90 \times 100 = 111$ 達成状況 A

- ・学校便り、学級通信、HP、各メディアでの掲載・放映等で、積極的に学校の情報を伝えている。また、オープンスクールでも多くの方々に授業参観していただき、広く複式授業や本校の取組の様子、児童の実態を見ていただくことができた。さらに、新聞記事への特集などにより地域の方の注目が高まっている。

コミュニティ・スクールや学校の取組の様子を毎月発信

2月までの各便り発行部数

(ともえ2040:5部、河内小だより:5部、みよし学園通信:1部) 11部発行

目標は毎学期の発信 11回(10~2月まで5回として) $11/5 \times 100 = 220\%$ 達成状況 A

- ・コミュニティ・スクールや小中一貫教育での取組を、「ともえ2040」「学校便り」「みよし学園通信」などの各たよりやHPで随時発信し、地域や保護者に取組状況を周知することができた。

【今後の改善方策】

- ・コミュニティ・スクールの進捗状況を、今後も積極的に発信していく。
また、今後もマスメディアを効果的に活用し、学校・地域の取材依頼を行いアピールする。情報発信により地域力もさらに高まり、地域力を生かした学校運営(コミュニティ・スクール)がより活性化できると考えられる。

(2) 地域から学校への満足度・信頼度の向上

保護者・地域アンケートの結果

①公開研究会(11月7日)

保護者、地域、学校運営協議会委員の肯定評価・・・97%

②下半期アンケート(12月実施)

保護者の肯定的評価・・・99.38%(前回99.4%)

③参観日アンケート（1月24日）

保護者、地域の肯定的評価・・・91.7%（前回97.3%）

④参観日アンケート（2月21日）

保護者の肯定的評価・・・・・・・・100%

$(97+99.38+91.7+100) \div 4 = 97.02\%$ $97 \div 90 \times 100 = 107.8$ 達成状況 A

- ・ 保護者・地域ともに高い肯定的評価である。「主体的に学習をしている」「地域を生かした授業をしている」と評価いただいた。一方で、「発表の音がやや小さい」という否定評価もある。確かに、児童の発表時の声の大きさや話し手に対する反応が弱くなっていると感じる場面がある。場面や場所に応じた話し方・聞き方や、相手意識を明確にした効果的な発表の指導を継続し、人前でも自信をもって堂々と伝えることができるようにする。

保護者・地域関係者の学校支援活動への参加数（10月～2月）

- ・ 環境整備作業（秋：30名）
- ・ 読み語り（2名：計10回）
- ・ ちゃぐりんキッズ稲刈り（JA、山家地域、老人会 計30名）
- ・ 一斉ボランティア清掃（地域3名、中学生10名）
- ・ ぶどう栽培（2名：計4回）
- ・ 菊アレンジメント（1名）
- ・ 祖父母学級（しめ縄づくり）（40名）

延べ128名の参加 全校児童18名の7.1倍の参加率

$128/80 \times 100 = 160$ 達成状況 A

【今後の改善方策】

- ・ 地域、保護者の学校に対する満足度は非常に高く、とても有難く感じている。コロナウィルス感染症の5類移行に伴い、様々な行事や学習発表をする機会が増えてきたことで子どもたちの活躍を直接見ていただけたことが大きな成果であると思う。
90%という高い肯定的評価を維持継続し、地域、保護者の期待に応えられるよう、子どもを鍛え学力をつけることが学校の責務である。
学力向上や校外行事での活躍、人前でも堂々と自己表現できる子どもの育成に引き続き取り組んでいく。
- ・ 学校と地域とともに活動する学習が進み、コミュニティ・スクールの取組が進んでいる。特に、各行事や学習活動及びPTA活動に関わる地域の方の参加率が高く、コミュニティ・スクールの動きも活性化していると感じている。